

電子町内会便り

初めての銭太鼓に参加して

今年の夏祭りは、小学生の女の子と理事や婦人部メンバーと一緒に、銭太鼓に参加しました。曲は一番覚えやすいということで、氷川きよしの「きよしのズンドコ節」になったのですが、始めたばかりの仕事、夏祭りの準備などせわしい時期の練習でしたので振りが覚えられるのかが心配でした。

案の定、本番まで何度も集まって練習しましたが、皆さんなかなか細かい部分が変わらず苦労しました。繰り返しているように見えて微妙に少し違うところがあるので、途中でこんがらがってしまうためです。その点、小学生の子たちはあっという間に覚えていて感心しました。

ついに、本番当日を迎え、ステージに立ちました。まだまだ自信はありませんでしたが、途中、隣の方の銭太鼓のバチがキャッチ失敗で横に飛んでいったところで、急に気が楽になり楽しくフィニッシュすることができました。

この夏の楽しい思い出になりました。

9組 理事 福島 京



フィナーレ



雑記帳

リオオリンピックの日本人選手の活躍から



リオオリンピックの日本人選手の活躍に日本中が湧きかえった。選手団の頑張りは見事であった。深夜にもかかわらず、テレビに釘付けになり、応援を送った人も多かったはずだ。

メダルを獲得するための選手達の努力は、生半可ではないことを強く知らされ、一分一秒を削りだすため、血のにじむような努力の積み重ねに敬意と尊敬を払わずにはおれない。

そして、多くの国民に感動、勇気、元気を与えたのであった。改めてスポーツの持つ力の大きさに気づかされた。

特に強く感じたのは、日本は団体戦になると、より大きな力を発揮するということだ。仲間を信じ、仲間とともに戦うということで、真剣さが増し、より高い戦闘能力を発揮する国民であるということに誇りに感じる。また、見る側も我々も好んで応援することがあり、団体競技の勝利は格別の感動がある。

さて、リオオリンピックの日本人選手の活躍から学ぶべきことは数多くあり、個々人それぞれであろう。

メダル獲得は、自分自身の日々の努力の成果そのもので自分自身が頑張ったことを自慢すればいいことだが、メダリストたちがこぞって口にするのは、周りの人への感謝の言葉であった。このことが嬉しさをより拡大させる。

こうしたことは、子供たちに何よりも大きな刺激になったはずだ。若いアスリート達のみならずスポーツ以外の勉強等でも、日々努力することの大切さと同時に、支えてくれる人たちに感謝することを疎かにしてはならないということも学んだのではないか。(独り言)